

柳澤 信夫・柴崎 浩 著

神経生理を学ぶ人のために

(B 5 判 322 頁 8,240 円 (税込) 1990 年 医学書院 刊)

加藤 元博

(九州大学医学部脳神経病研究施設)

柳澤信夫氏、柴崎浩氏共著による「神経生理学を学ぶ人のために」が医学書院から出版された。本書は2部から成り、第1部は柳澤氏によって末梢神経・筋肉系生理学の解説がなされ、第2部は柴崎氏により脳生理学関連の解説がなされている。

本書の特徴を挙げると、①2人だけの著者による書なので、内容が系統的に網羅されるよう吟味されており、しかも重複が少ないこと、②理解に必要な生理・解剖学的基礎知識がそれぞれの項に簡潔まとめられているので、合理的な理解が容易であること、③著者自身の経験に基づく記載や図表が多いので、具体的でわかりやすい内容になっていること、④検査上や所見解釈上の注意にも言及され、実地上にも役に立つよう配慮されていること、⑤各節の末尾に要約がつけられているので、内容の整理が

容易であること、などである。

末梢神経・筋肉系検査では、運動・感覚神経最大伝導速度、針筋電図、表面筋電図に加えて、H波、F波、T波、長潜時反射など幅広い範囲の解説がなされ、さらに微小神経電図、single fiber EMG、macro EMGなどの特殊検査にも言及されている。動作学的検査法についても反応時間、随意運動の解析法、重心・歩行検査について詳述されており、これらについて幅広い知識を得ることができる。もし欲をいうならば、伝導速度については最大伝導速度のみでなく、例えば伝導速度分布、分節単位の伝導速度 (inching technique など) も解説されていたらと思う。

脳波については、その所見を電気生理学的機序に基づいて動的、合理的に解釈する態度が本書によって学べる。従来、わが国ではこの点に対する関心が必ずしも十

分であったとは思われないので、本書の果たす役割は大きいであろう。同様にわが国ではモニタージュ、検査手技の重要性への関心も十分に高いとはいいがたいので、例えば日本脳波・筋電図学会の基準なども今一つ具体的に解説してもらおうとよかったのではないか？ 誘発電位については体性感覚、視覚、聴覚の各誘発電位に加えて事象関連電位 (P300, CNV など)、運動関連脳電位、jerk-locked back averaging について、最新の情報も盛り込んだ詳しい解説がなされている。これらは臨床的な大脳生理学の現在におけるまとめとしても価値あるものと考えて、加えて、最後に最近研究が進められている経皮的運動皮質刺激法についても簡単に言及されている。

このように本書は臨床神経生理学について、幅広く、しかも系統的に学ぶに適した書であるといえる。また実地検査にも有用である。したがって、本書はこれから臨床神経生理学を始める人には勿論、現在実際にこの方面で活動している人にとっても知識の整理のために価値あるものと考えて、さらに神経関係の臨床に携わる他の分野の人々にも一読をお奨めしたい。